

例 言

- 一、本町誌は下部町発足二十五周年記念事業の一つとして、本町の地誌として編さんした。
- 一、資料収集には万全を期し、各部落の資料を均一に掲載するよう努めたが、地域により保全損失があり扱いにやや片寄りを生じた。
- 一、資料等の関係から記述に精粗繁簡があり、また表現形態に多少の差異があるのは、各編はもちろん章・節によっても執筆者を異にしたため、修文の時点で努力は払ったつもりであるが十分ではなかった。
- 一、資料の引用は執筆者の表現意図によるもので、多小同一資料や同性格の写真・図表等が掲載されている場合がある。
- 一、記述内容に重複する箇所があるが、それはその編・章としてのまとまりや、読む人の理解しやすさを考えて、あえてしたものである。
- 一、文章はつとめて平易にし、現代かなづかい及び当用漢字の使用を原則としたが、やむを得ず旧漢字を使用する場合はルビを付した。
- 一、引用の近世・近代文書は原文のままとしたが、理解しやすくするためだけ要約文を載せた。なお、文意上疑問の余地のある箇所には（ママ）を付した。
- 一、引用資料の出典についてはつとめて本文中に明記したが、なお巻末に参考文献・資料として列記した。
- 一、出てくる人名については原則として敬称をはぶいた。
- 一、編集の最終時点を昭和五十五年三月末としたが、その期日がやや不統一になったのは諸般の事情でやむを得なかった。

